

2023年度 一般社団法人日本社会福祉学会事業報告

(2023年4月1日～2024年3月31日)

2023年度は、コロナ禍を乗り越え、新たな学会運営および大会開催等のあり方を模索しながら、社会福祉学分野のさらなる学問的水準の向上に取り組んだ一年であった。学術研究集会の開催や学会機関誌の刊行等の活動に加え、日中韓三ヵ国の研究交流の推進に関する覚書に基づいて各国の代表者および自由研究発表者を受け入れる等、国際的な学術交流をより一層深めた年でもあった。初期キャリア形成期にある研究者を対象としたCS-NETサロンの企画・実施も軌道に乗り始めたため、さらに充実したものとなるよう次年度以降へと引き継いでいく。

I. 学術研究集会、講演会等の開催

1. 全国大会

1) 第71回春季大会報告

2023年5月28日(日)に東洋大学白山キャンパスにて「揺らぐ家族と社会福祉—子どもが育つ環境をどうつくるか」をテーマにシンポジウムを開催した。当日の現地開催に加えて会期後にオンデマンド配信を行い、約340名が参加した。

2) 第71回秋季大会報告

2023年10月14日(土)・15日(日)に武蔵野大学武蔵野キャンパスを開催校として「世界の幸せをカタチにする社会福祉学の挑戦」をテーマに開催し、約640名が参加した。コロナ禍を乗り越えて、久々に完全対面での開催であった。SDGs達成に向けた新たな試みとして、配付資料のデジタル化にも取り組んだことも特筆すべき点となった。今大会においても、事前に申請した大学院生等の学生会員に対して参加費を免除することとし、55名からの申請があった。

3) 第72回全国大会に向けての準備

第72回春季大会は2024年5月26日(日)に「戦争と社会福祉—歴史研究に学ぶ」をテーマに、明治学院大学白金キャンパスにて開催予定である。

第72回秋季大会は、2024年10月26日(土)・27日(日)に「現代における社会福祉の本質を探る」をテーマに開催予定である。日本福祉大学を開催校として、口頭発表、ポスター発表、特定課題セッション発表、開会式および各種シンポジウム等の実施を予定している。一日目午後の企画のみ東海市芸術劇場を会場として準備を進めている。全てのイベントは従来どおり対面で行うが、会期後のオンデマンド配信を予定している。

2. 日本社会福祉学会フォーラム

2023年度は、2024年3月2日(土)に、学会の北海道地域ブロックとの共催で「『人口減少社会から考える社会福祉』—パラダイム・シフトへの道—」をテーマに札幌学院大学新札幌キャンパスにてハイフレックス開催をした。

2024年度開催の第21回フォーラムは東北地域ブロックとの共催での開催を予定している。

3. 地域ブロック研究大会

各地域ブロックの研究大会については、各地域ブロックからの事業報告に記載されている。

Ⅱ. 学会機関誌『社会福祉学』その他刊行物の刊行

1. 学会機関誌『社会福祉学』刊行

1) 機関誌編集委員会活動

①機関誌編集委員会構成

2023年度の機関誌編集委員会は以下の18名で構成した（敬称略）。

委員長：坪 洋一（理事）、副委員長：久保美紀（理事）、大友芳恵（理事）

委員：石井洗二、伊藤新一郎、植戸貴子、岡本晴美、萩野剛史、潮谷恵美、澁谷昌史、
中尾友紀、中村和彦、野田博也、馬場幸子、本郷秀和、南野奈津子、三宅雄大、
山口麻衣

②機関誌編集委員会開催

2023年度には編集委員会を2023年7月10日（月）、10月20日（金）、2024年1月20日（土）、3月25日（月）の計4回開催した。

③拡大編集委員会開催

機関誌拡大編集委員会をオンデマンド配信で開催した。

④機関誌のテキストデータの提供

視覚障害のある会員の要請に応じて、『社会福祉学』のテキストデータの提供を行った。

2) 機関誌『社会福祉学』刊行

2023年度には和文誌を4回（64-1/64-2/64-3/64-4）発行した。なお英文誌「Japanese Journal of Social Welfare」は未刊行であった。投稿論文2本、掲載論文0本。

巻／号	64-1	64-2	64-3	64-4
発行月	2023年5月	2023年8月	2023年11月	2024年2月
論文	6	5	5	4
実践報告	0	0	0	0
調査報告	1	0	1	2
資料解題	0	0	0	1
書評	2	1	2	1
文献紹介	2	1	2	2
学会回顧・展望	0	0	11	0
全国大会等	0	0	0	5
総ページ数	126頁	90頁	232頁	132頁
印刷部数	4,550部	4,500部	4,500部	4,450部

2. 地域ブロック機関誌刊行

各地域ブロックの機関誌発行状況は、各地域ブロックからの事業報告に掲載されている。

Ⅲ. 研究の奨励および研究業績の表彰

1. 日本社会福祉学会 学会賞

1) 学会賞審査委員会の開催

2023年度学会賞の審査委員会は、黒木保博委員長、山縣文治副委員長、井上英夫委員、笹岡眞弓委員、野口定久委員、平野隆之委員、細井勇委員、森田明美委員と学会賞審査委員会担当理事である杉山博昭理事が構成し、2022年1月から12月までに刊行された図書および論文を審査した。

2) 審査対象研究業績

2022年1月から12月までに刊行された研究業績の内、会員から推薦された8作に、国立国会図書館検索システムから抽出した単著かつ日本社会福祉学会会員が執筆した著作、アマゾン日本版の検索サーチから抽出した著作を加えて、32作の会員業績を審査対象とした。

論文部門は、推薦された7編に、2022年に本学会機関誌(第62巻4~5号、第63巻1~3号)に掲載されたもののうち、過去に奨励賞(論文部門)受賞経験のない筆者の論文23編を加えた30編を審査対象論文とした。

3) 審査の経緯

第1回審査委員会(2023年2月24日開催)

審査対象となる研究業績を絞り込み、32作の単著、30編の論文を第1次審査対象とした。

第2回審査委員会(2023年5月21日開催)

第1次審査対象図書の査読結果を報告し、第2次審査対象として、7作の単著、4編の論文を選考した。

第3回審査委員会(2023年7月23日開催)

第2次審査対象図書の査読結果を報告し、総括的審査の結果、全会一致で以下の通り、学術賞1名、奨励賞2名の授賞者を決定した。

○学術賞

林 健太郎 『所得保障法制成立史論

——イギリスにおける「生活保障システム」の形成と法の役割』(信山社、2022年3月30日刊)

○奨励賞(単著部門)

大澤 亜里 『ヤヌシュ・コルチャックの教育実践

——子どもの権利を保障する施設養育の模索』(六花出版、2022年2月1日刊)

天島 大輔 『しゃべれない生き方とは何か』(生活書院、2022年2月25日刊)

4) 学会賞授賞式

2023年10月14日、第71回日本社会福祉学会秋季大会(武蔵野大学)において授賞式が行われ、黒木保博委員長による挨拶および経過報告の後、空閑浩人会長より林健太郎氏に学術賞が、大澤亜里氏ならびに天島大輔氏に奨励賞が授与された。

2. 地域ブロックへの研究奨励

「日本社会福祉学会地域ブロック助成金配分基準」に基づいて、各地域ブロックの研究事業を支

援した。各地域ブロックの下の「地域部会委員会」が中核となり、事業計画に基づいて活動が展開された。その事業内容は各地域ブロックからの事業報告に掲載されている。

IV. 関連学術団体との連絡および協力

1. 日本社会福祉系学会連合

会長として本学会の保正友子副会長（任期：2022年5月～2024年5月）を、事務局長として後藤広史理事（任期：2022年5月～2024年5月）を、運営委員として小櫃俊介会員と越智あゆみ会員を派遣している（任期：2022年5月～2024年5月）。また、本学会の学会事務局と同様に、日本社会福祉系学会連合として、加盟学会との連絡、資料作成、経理処理等の事務局業務について（株）国際文献社と委託契約を締結している。

2024年2月1日（木）～2024年2月29日（木）に、日本社会福祉系学会連合に加盟している22学会の会員を対象として、With コロナ時代における研究に関する状況とニーズと学会活動のあり方についてアンケート調査を実施した。

2. その他の関連団体との連携

「社会政策関連学会協議会」「社会学系コンソーシアム」「ソーシャルケアサービス研究協議会」「人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会」に理事等役員を派遣し、連携に努めた。

V. 国際的な研究協力の推進

1. 韓国を始めとする東アジア諸国との連携及び学術交流

1) 韓国社会福祉学会 2023 年度共同学術大会への派遣

2023年10月20日（金）・21日（土）に済州島国際コンベンションセンターにて開催された2023年度韓国社会福祉学会共同学術大会に、自由研究発表者3チーム（4名）を派遣した。

2) 中国社会学会社会福祉研究専門委員会年次総会への派遣

2023年度は自由研究発表者の派遣はなかった。

3) 2023 年度国際学術交流シンポジウムの開催

2023年10月15日（日）に武蔵野大学にて開催された第71回秋季大会へ、韓国ならびに中国より招聘者を招き「幸せな生活を支えるために社会福祉に求められるものは何か。」というテーマでシンポジウムを開催した。

4) 日・韓・中3カ国学術交流会議について

第71回秋季大会前日の10月13日（金）に日韓中3カ国協議を開催し、空閑浩人会長、金子光一副会長／国際学術交流促進委員長、保正友子副会長、所めぐみ理事／国際学術交流促進委員会委員、姜恩和国際学術交流促進委員会委員、索宏国際学術交流促進委員会委員、楊慧敏国際学術交流促進委員会委員が出席した。その後、懇親会を行った。

2. 在日留学生会員の育成に向けた事業実施

第71回秋季大会において、2023年10月14日（土）に留学生と国際比較研究のためのワークショップ（テーマ：社会福祉研究・教育における多文化共生（2）～韓国・中国における留学生、少数民族、文化的マイノリティ等の多様な学生の受け入れ及び対応の現状と課題～）を実施した。

VI. 学会の組織・運営

1. 会員の動向

1) 入会について

2023年度の入会許可者数は、149名である。

2) 会員の動向

2023年度入会者が149名、2023年度退会者が203名で、2024年4月1日現在の会員数は4,152名である。

3) 名誉会員数

2024年5月1日現在の名誉会員は下記の15名である（50音順、敬称略）。

秋山 智久 阿部 志郎 井岡 勉 岩田 正美 右田 紀久恵 太田 義弘
大友 信勝 大橋 謙策 岡本 栄一 岡本 民夫 忍 博次 児島 美都子
小林 良二 中垣 昌美 古川 孝順

2. 一般社団法人日本社会福祉学会定時社員総会

「定款」第29条の規定に基づいて、「2023年度定時社員総会」を開催した。出席代議員は、137名（委任状105名含む）であった。審議事項および報告事項は、以下の通りである。

開催日時：2023年5月28日（日）10：00～10：50

開催会場：東洋大学白山キャンパス 1号館3階1307教室

審議事項

1. （一社）日本社会福祉学会 2022年度事業報告・決算・監査報告について
2. （一社）日本社会福祉学会 2023年度事業計画及び当初予算について
3. 秋季大会の担当地域ローテーション案について
4. その他

報 告

1. その他

3. 理事会

2023年度は、学会の諸課題を検討し、学会運営を円滑に遂行するために5回開催した。また、臨時のメール審議を適宜行った。

役員構成は、別表一①の通りであり、審議事項は以下の通りである。（報告事項は除く）

第1回理事会（2023年5月27日開催）

審議事項

1. 入会審査
2. 長期会員審査および申請条件の変更について
3. 2023年度予算案の変更について
4. 2022年度事業報告、決算報告および監査報告（理事会ML審議済）
5. 秋季大会開催ローテーションについて
6. 今後の春季大会会場について
7. 名誉会員の地域ブロックの大会参加費について

8. 『社会福祉学』J-Stage 閲覧のための認証パスワードの設定について
9. 監訳の廃止と翻訳謝金の見直しについて（謝金支払い内規より）
10. 学会のあり方検討会について
11. GEAHSS の副幹事学会・幹事学会を務めるための役員選出について
12. その他

第2回理事会（2023年7月29日開催）

審議事項

1. 入会審査
2. 選挙管理委員会の設置および委員の選出
3. 学会賞審査委員の再任手続きおよび新任の選出
4. 2023年度学会賞授賞候補作について
5. 次期査読委員（2024-2026）への委嘱について
6. インボイス制度について
7. 『社会福祉学』バックナンバー販売価格の改定について
8. 一般社団法人日本社会福祉学会「学生アルバイト代金に関する申し合わせ事項」の改定について
9. その他

第3回理事会（2023年10月13日開催）

審議事項

1. 入会審査
2. 学会賞審査委員の委嘱について（メール審議済み）
3. 「一般社団法人日本社会福祉学会旅費規程」の改定について
4. 「一般社団法人日本社会福祉学会謝金支払い内規」の改定について
5. 「一般社団法人日本社会福祉学会名誉会員規程」の改定について
6. 中国・四国地域ブロック役員の任期終了について
7. 2025年度秋季大会開催校について
8. 後援を承諾した団体からの情宣協力依頼について
9. その他

第4回理事会（2023年12月16日開催）

審議事項

1. 入会審査
2. 2024年度業務委託契約について
3. 第9期役員候補者選挙管理委員の委嘱について
4. 第71回秋季大会での研究発表への見解について
5. その他

第5回理事会（2024年3月3日開催）

審議事項

1. 入会審査
2. 2024年度事業計画案および予算案について
3. 「一般社団法人日本社会福祉学会 基本構想委員会規程」制定について

4. 「一般社団法人日本社会福祉学会 委員会規程」の改正について
5. 2024年度定時社員総会での名誉会員の推挙について
6. 2024年度定時社員総会の議題について
7. 全国大会運営委員の委嘱および解嘱について
8. 秋季大会当日投影資料および当日配付資料の事前確認の廃止について
9. 地域ブロック内組織の委員への依頼状について
10. その他

4. 運営委員会

事業計画を踏まえ事業状況を確認すると共に、各種委員会から提案された課題・報告事項、事務局会議からの課題・報告事項を確認、整理するために、各回の理事会に先立ち、会長、副会長、総務担当理事、研究担当理事、財務担当理事、機関誌編集担当理事をメンバーとする運営委員会を開催した。

5. 監査

定款第20条に基づいて、2023年度上半期の監査を12月7日に実施し、12月16日開催の理事会で業務状況及び予算執行状況について報告を行った。また、2023年度全体の監査を2024年4月30日に実施し、理事会および定時社員総会にて、法人の業務および財産状況の報告を行った。

6. 各種委員会の活動（委員会構成は別表一②）

1) 大会運営委員会

1. 2023年度において推進した事業

(1) 第71回（2023年度）春季大会の開催

テーマ：揺らぐ家族と社会福祉—子どもが育つ環境をどうつくるか

期 日：2023年5月28日（日）

会 場：東洋大学 白山キャンパス 1号館 3F 1305 教室

※3年ぶりの対面開催（後日オンデマンド配信あり）

(2) 第71回（2023年度）秋季大会の開催

テーマ：世界の幸せをカタチにする社会福祉学の挑戦

期 日：2023年10月14日（土）～15日（日）

開催校：武蔵野大学武蔵野キャンパス

※完全対面（オンデマンド配信等なし）での開催

※当日配付資料なし。パワーポイント投影による発表形式の再導入

(3) 第20回日本社会福祉学会フォーラムの開催（北海道地域ブロックとの共催）

テーマ：人口減少社会から考える社会福祉—パラダイム・シフトへの道—

期 日：2024年3月2日（土）

会 場：札幌学院大学新札幌キャンパス（Zoomとのハイフレックス開催）

(4) 第72回（2024年度）春季大会の開催準備

テーマ：戦争と社会福祉—歴史研究に学ぶ

期 日：2024年5月26日（日）

- 会 場：明治学院大学 白金キャンパス
- (5) 第 72 回 (2024 年度) 秋季大会の開催準備
テーマ：現代における社会福祉の本質を探る
期 日：2024 年 10 月 26 日 (土) ～27 日 (日)
会 場：(26 日午後) 東海市芸術劇場、(26 日午前、27 日) 日本福祉大学東海キャンパス
- (6) 第 21 回学会フォーラムの内容検討
東北地域ブロックと協議中

2. 現在、検討している事項

- (1) 秋季大会の開催校の負担が大きく、引き受けることのできる大学が少ないという問題が起こりつつあるため、以下の点について、改善・検討を進めている。
- ・自由研究発表やポスター発表等の当日資料の事前チェック（査読）のあり方の見直し
 - ・開催校とヘルプデスクと大会運営委員会との役割分担の見直し
 - ・開催校の裁量の範囲と、学会として必ずお願いしたい事項の明確化
- (2) 特定資産事業として実施してきた「フォーラム」は 2024 年度（第 21 回）で終了予定であるが、今後も継続していくべきか、主催する地域ブロックの意見を聴きながら検討を進める。

3. その他（課題等）

- (1) 春季大会、秋季大会、フォーラム等、対面のみではなくオンラインも含めたハイブリッドでの開催を求める学会員の声が多い。しかし、ハイブリッド開催は費用も多く必要であるため、参加費をあげる等の方策について今後は検討する必要があるかもしれない。
- (2) 配付資料を減らす等、ペーパーレスを推進したが、印刷配付を求める声も一定あった。

2) 学会賞審査委員会

1. 2023 年度において推進した事業

(1) 学会賞の選考について

業績審査は 2022 年 1 月から 12 月までに刊行された図書及び論文を審査した。

①審査対象研究業績

2022 年 1 月から 12 月までに刊行された研究業績の内、自薦・他薦された図書（8 作）以外に、国立国会図書館到着発送情報において社会福祉学に関わる文献として該当する 5,295 作を選び、かつそれらが日本社会福祉学会員の対象業績であるかどうかをチェックした結果、17 作を抽出した。また、アマゾンリサーチを活用し、「社会福祉（2022 年刊行）」で検索した結果、上記検索図書以外に会員業績として 8 作を抽出することができた。なお、実践のルポルタージュ、随想、テキストの他、共著による書籍や過去に刊行された書籍の改訂版等については、本事業における表彰の対象ではないことから、目次や図書紹介、概要などをもとに検討して除外した。上記の結果、学会賞審査委員会へ提案された審査対象書籍のうち 32 作を第 1 次審査対象書籍とすることを決定した。

論文については、推薦のあった 7 編と、日本社会福祉学会の機関誌の第 62 巻 4～5 号および 63 巻 1～3 号に掲載されたもののうち、過去に奨励賞（論文部門）受賞経験のない筆者の論文 23 編の合計 30 編を対象論文として審査することにした。

②審査の経緯

◆第1回審査委員会（2023年2月24日開催）

上記の審査対象の研究業績について審査を行った。審査項目は、①研究の意義、視点、方法の明確性、②記述の明晰性、記述表現の妥当性、③先駆性、開拓性、独創性、④研究の完成度、成果度、⑤研究実践上の貢献度の5項目とした。各項目の6点満点で評価することを確認した。

第1次審査を行う32作の書籍について、1作につき2人の審査委員を選び、上記の5つの審査項目によって審査し、自由記述でコメントを付すことにした。最終的には、審査委員ごとに6作から8作の審査対象書籍が割り振られた。

第1次審査を行う論文30編については、1編につき2人の審査委員が担当することとし、結果的に各審査委員が6編から8編の論文を担当することになった。

◆第2回審査委員会（2023年5月21日開催）

第1次審査対象図書の本数と査読結果を報告し、合計60点満点のうち、概ね48点を超えるものを第2次審査対象著書として選定した。47点以下の著書についても1冊ずつ評価を行い、第2次審査の対象に残す必要があるかどうかを評価・確認した。

結果として、7作の著書、4編の論文を第2次審査対象書籍および論文とした。

◆第3回審査委員会（2023年7月23日開催）

審査委員全員で第2次審査対象著書6作、対象論文2編を上記5項目（各項目6点満点）について評定し、各対象作に対してコメントを記載したものを共有した。いずれも評価は高いものであったが、総括的審査の結果、全会一致で以下の授賞候補作が決定し、2023年7月29日開催の第2回理事会にて授賞候補作の理事会承認を得た。

○学術賞

林 健太郎 『所得保障法制成立史論

——イギリスにおける「生活保障システム」の形成と法の役割』（信山社、2022年3月30日刊）

○奨励賞（単著部門）

大澤 亜里 『ヤヌシュ・コルチャックの教育実践

——子どもの権利を保障する施設養育の模索』（六花出版、2022年2月1日刊）

天畠 大輔 『しゃべれない生き方とは何か』（生活書院、2022年2月25日刊）

○奨励賞（論文部門）

該当者なし

（2）学会賞授賞式について

2023年10月14日、第71回日本社会福祉学会秋季大会（武蔵野大学）において授賞式が行われ、黒木保博委員長の挨拶及び経過報告の後に、空閑浩人会長より林健太郎氏に学術賞が、大澤亜里氏ならびに天畠大輔氏に奨励賞が授与された。

2. 現在、検討している事項

審査票及び審査の基準は過去の書式・基準を踏襲して使用しているが、本事業も開始から20年近く経過し、踏襲している審査票及び基準について委員会でも解釈が揺れる部分が生じていることから、審査票の刷新を検討したほうが良いのではないかという意見が出た。

3. その他（課題等）

第2次審査対象論文を英訳して英文誌オンラインジャーナル『Japanese Journal of Social Welfare』に掲載する案について運営委員会より検討依頼があったが、疑念点が多く、審議未了となっている。

学会誌へ投稿された論文への表彰を通じ学会員の活動を奨励していきたいが、2019年度を最後に奨励賞（論文部門）の該当者がいない状況が続いている。『社会福祉学』へ掲載された論文は原則全て審査の対象としているが、それ以外の雑誌に掲載された論文については推薦されたもののみが審査対象となるため、まずは地域ブロック担当理事経由で各地域からの推薦を依頼した。

3) 研究倫理委員会

1. 2023年度において推進した事業

(1) 研究倫理委員会構成

委員長：村山浩一郎（理事）、副委員長：河谷はるみ（会員）

委員：柴田謙治（会員）、永田千鶴（会員）、宮原和沙（会員）

(2) 研究倫理案件発生における委員会対応

- ・当該年度において研究倫理問題が発生しなかったため、委員会召集は行っていない。
- ・「研究倫理規程に対する違反行為への調査および処分に関する規程」と、研究倫理問題が発生した場合の手続きと作業の流れを示したスキーム図を構成員で共有した。

2. 現在、検討している事項

特になし。

3. その他（課題等）

特になし。

4) 国際学術交流促進委員会

1. 2023年度において推進した事業

(1) 留学生と国際比較研究のためのワークショップの実施

開催日時：2023年10月14日（土）10：00～12：30

開催場所：武蔵野大学

テーマ：社会福祉研究・教育における多文化共生（2）

～韓国・中国における留学生、少数民族、文化的マイノリティ等の多様な学生の受け入れ及び対応の現状と課題～

発題者：中国社会学社会福祉専門研究委員会代表：高春蘭氏（長春工業大学教授）

「中日韓社会福祉の国際交流における人材育成の研究」

韓国社会福祉学会代表：任貞美氏（慶尚国立大学助教授）

「韓国人と移住民の多文化受容性、そして、留学生の大学生活」

コーディネーター：ヴィラーク・ヴィクトル委員（日本社会事業大学）

黒田 文委員（東北福祉大学）

(2) 東アジア諸国との連携及び学術交流・推進事業

①日・中・韓三カ国協議

開催日時：2023年10月13日（金）17：00～18：00

開催場所：吉祥寺ホテルエクセル東急会議室

協議事項：学術交流「覚書」の確認および2024年度の更新に向けた方向性の確認等

出席者（日本）：空閑浩人会長、金子光一副会長／国際学術交流促進委員会委員長、
保正友子副会長、所めぐみ理事／国際学術交流促進委員会委員

出席者（韓国）：ホン・キョンジュン会長、任貞美氏、金修完氏

出席者（中国）：黄晨熹副会長、高春蘭氏

各国の国際委員

②国際学術シンポジウム

開催日時：2023年10月15日（日）9：30～12：00

開催場所：武蔵野大学

テーマ：幸せな生活を支えるために社会福祉に求められるものは何か。

発題者：韓国社会福祉学会：金修完氏（江南大学）

中国社会学会社会福祉研究専門委員会：黄晨熹氏（華東師範大学）

日本社会福祉学会：木原活信氏（同志社大学・日本社会福祉学会前会長）

コーディネーター：所めぐみ委員（関西大学）、浅野貴博委員（ルーテル学院大学）

③韓国、中国からの個人自由研究発表者の受け入れ

韓国社会福祉学会（4チーム）

- ・イアヨン氏（ソウル大学）、キムジュオク氏（ソウル大学）
- ・李宣英氏（江陵原州大学）、朴炳宣氏（江陵原州大学）
- ・クオンヒョンジョン氏（霊山大学）、イムジョンミン氏（成均館大学）
- ・ソジョンミン氏（私立学校教職員年金公団）

※中国社会学会社会福祉研究専門委員会からは報告者なし

④韓国社会福祉学会2023年社会福祉共同学術大会へ個人研究発表者の派遣

開催月日：2023年10月20日（金）・21日（土）

開催場所：州島国際コンベンションセンター

派遣者：3チーム4名

①佐々木隆志会員、②門下祐子会員、羽山慎亮会員、③張思銘会員

(3) 海外の研究動向の学会ホームページ掲載

第2回 「国際学会の動向」 藪長千乃委員（東洋大学）2023年8月掲載

ヨーロッパを中心として開催されているオープン参加が可能な2つの国際学会の動向と2つの分科会について紹介

(4) 国際学術交流促進委員会開催

第1回：2023年6月3日（土）、第2回：2024年2月2日（金）

2. 現在、検討している事項

(1) 第72回秋季大会における企画シンポジウムの開催

テーマ：「国際学術交流・研究のあり方を問う」（仮）

開催日時：2024年10月27日（日）10：00～12：00

開催場所：日本福祉大学東海キャンパス（ハイブリッド）

発題者：中国代表（検討中）

北欧代表（検討中）

日本代表：黒木保博（国際学術交流促進委員会・元委員長）

コーディネーター：国際学術交流促進委員

3. その他（課題等）

- (1) オンラインでの学術交流や AI による翻訳機能の発達等で国際交流のあり方は大きく変わったので、国際学術交流のあり方を考える必要がある。
- (2) 「三カ国協定」は、2024年度契約更新の手続きがあるが、本学会（日本）のスタンスを明確にしておく必要がある。
- (3) 学会費で行われている国際学術交流促進委員会の企画が本当に会員に還元されているか検証する必要がある。

5) 広報委員会

1. 2023年度において推進した事業

(1) 「学会ニュース」の発行 ※ホームページ上に年3回掲載

- ・2023年度のクローズアップコーナーのテーマを広報委員会にて「日常から離れて」と決め、コラムを掲載した。
- ・前年度に引き続き地域の学会活動の動向を広報することを目的とした「地域ブロック紹介」を充実させた。

第93号（2023年7月4日）、第94号（11月6日）、第95号（2024年2月7日）

(2) 「広報委員会だより」の発行 ※年5回の一斉送信

学会の動向や必要な情報、最新情報、関連団体からの情報等を中心に配信を行った。

第64号（2023年5月10日）、第65号（7月27日）、第66号（9月27日）、

第67号（12月4日）、第68号（2024年3月7日）

(3) 学会ホームページの運営・管理および充実化

①新着情報の掲載と情報更新

②英語版・韓国語版・中国語版のホームページの充実化

「学会ニュース」の中から外国語版ホームページに掲載すべきものを委員会内で検討し、各翻訳チームに翻訳を依頼。それぞれの言語に翻訳されたものをアップロードした。

③研究支援委員会企画「若手研究者リレーエッセイ」の掲載

- ・毎回2名ずつ。現在第19回まで掲載（38名分）

2. 現在、検討している事項

- ・翻訳チームの体制について
- ・X（旧 Twitter）公式アカウントの運営体制

3. その他（課題等）

翻訳チーム、特に英語のチーム運営に苦慮しており、次期で再検討したい。

6) 機関誌編集委員会

1. 2023 年度において推進した事業

(1) 学会機関誌『社会福祉学』刊行

①機関誌編集委員会活動

i. 機関誌編集委員会構成

2023 年度には以下の 18 名で機関誌編集委員会を構成し、業務にあたった。

委員長： 坪 洋一（理事）、副委員長：久保美紀（理事）、大友芳恵（理事）

委員： 石井洗二、伊藤新一郎、植戸貴子、岡本晴美、萩野剛史、潮谷恵美、
澁谷昌史、中尾友紀、中村和彦、野田博也、馬場幸子、本郷秀和、
南野奈津子、三宅雄大、山口麻衣

ii. 機関誌編集委員会開催

2023 年度には編集委員会を計 4 回開催した（オンライン）。

7 月 10 日（月）、10 月 20 日（金）、2024 年 1 月 20 日（土）、3 月 25 日（月）

iii. 機関誌拡大編集委員会開催

機関誌拡大編集委員会をオンデマンド配信で開催した。

②機関誌『社会福祉学』刊行

2023 年度には和文誌を 4 回（64-1/64-2/64-3/64-4）発行した。なお英文誌「Japanese Journal of Social Welfare」は未刊行であった。投稿論文 2 本、掲載論文 0 本。

(2) 地域ブロック機関誌刊行

各地域ブロック機関誌の刊行については、各地域ブロックからの事業報告に掲載されている。

2. 現在、検討している事項

- ・英文誌の再編
- ・二重投稿規定の準備
- ・投稿カテゴリーの見直し
- ・第三査読フロー（「掲載までのフローチャート」）の見直し
- ・再投稿規定の整備

3. その他（課題等）

- ・査読マニュアルの見直し（ビジュアル化、ガイド動画作成など）
- ・査読委員のモチベーション向上に向けた取り組み（依頼辞退増への対応）
- ・本誌における質的研究ガイドラインの設定
参考→<https://quarin.jp/wp-content/uploads/2022/01/SRQR.pdf>
- ・和文誌の電子ジャーナル化の検討

7) アーカイブ化推進委員会

1. 2023 年度において推進した事業

- (1) 日本社会福祉学会外部倉庫からの保管品合計 44 箱（9 月 10 箱と 2 月 34 箱）の取り出しと確認作業
- (2) 日本社会福祉学会の秋季大会要旨集の全 24 大会分の購入と既存蒐集分の確認
- (3) リモートによる委員会活動の審議・報告および対面による委員会開催（1 回）
- (4) 本委員会としての活動方針や取り組み方について協議

2. 現在、検討している事項

- (1) 外部倉庫保管の史資料目録化と廃棄史資料提案のための検討
- (2) 学会史資料として収集または購入した大会要旨集の保管と利活用
- (3) 理事会活動や委員会活動における史資料データの取り扱い規定や保管基準等の検討、必要に応じて学会事務局保管の史資料と部会史資料の整理保管・利活用の基本的考え方について整理検討
- (4) カセット、ミニディスク、フロッピーディスク、CD-R デジタルデータの利活用についての考え方を引き続き整理検討する
- (5) 学会機関誌のデジタルアーカイブ化作業と利活用の検討

3. その他（課題等）

未見および未収集の秋季大会要旨集についての確保方法

8) 研究支援委員会

1. 2023 年度において推進した事業

- (1) スタートアップ・シンポジウムの企画・運営
 - ・第 71 回（2023 年度）秋季大会における「スタートアップ・シンポジウム」の企画・運営
テーマ：初期キャリア研究者のニーズに応える支援のあり方
開催日時：2023 年 10 月 14 日（土）9：30～12：00
開催場所：武蔵野大学
 - ・第 72 回秋季大会における「スタートアップ・シンポジウム」の企画・検討
テーマ：実践と研究の循環を考える
- (2) 初期キャリア研究者を対象としたネットワーク「CS-NET」の運営
 - ・第 3 回 CS-NET サロンを下記の通り開催した。
テーマ：研究とプライベートライフのやりくりと苦悩
日時：2023 年 8 月 10 日（木）13：00～15：00
開催方法：オンライン（無料）
 - ・第 4 回 CS-NET サロンを下記の通り開催した。
テーマ：初期キャリア研究者にとっての共同研究の意義—可能性、苦悩、戦略—
日時：2024 年 2 月 11 日（日）14：30～17：30
開催方法：ハイブリッド（同志社大学、オンライン）（無料）
※関西地域ブロック第 55 回若手研究者・院生情報交換会との共催

(3) 人文社会科学系学協会男女共同参画推進部会（GEAHSS）への参画

- ・ GEAHSS の運営委員会に参加し、シンポジウム等について会員に周知した。
- ・ 第7期（2023年10月1日～2024年9月30日）の会計監事として活動した。

(4) 研究支援に関する情報発信

- ・ 学会ホームページに、リレーエッセイを掲載した。
- ・ 学会ニュースにて CS-NET サロン活動の報告を行った。
- ・ 日本社会福祉学会ホームページの CS-NET のサイトを運営した。
- ・ CS-NET のメーリングリストを開設し運営した。

2. 現在、検討している事項

- ・ 初期キャリア研究者が主体的に活用できるスタートアップ・シンポジウムのあり方について検討する。
- ・ 初期キャリア研究者が主体的に開催するサロンの運営を始める。
- ・ CS-NET のメーリングリストの効果的な運用について検討する。
- ・ リレーエッセイの掲載を継続する。

3. その他（課題等）

特になし。

1. 2023年度において推進した事業

(1) 理事会の開催

第1回理事会

日 時：2023年4月6日（木）19：00～

場 所：オンライン（Zoom）

第2回理事会

日 時：2023年6月19日（月）19：00～

場 所：オンライン（Zoom）

第3回理事会

日 時：2023年8月1日（火）14：00～

場 所：オンライン（Zoom）

第4回理事会

日 時：2023年11月14日（火）19：00～

場 所：オンライン（Zoom）

第5回理事会

日 時：2024年1月19日（金）18：00～

場 所：オンライン（Zoom）

(2) 北海道社会福祉学会 総会・講演

1) 講演

日 時：2023年7月23日（日）13：00～14：00

場 所：オンライン（Zoom）開催（無料）

出席者：52名

講 演：「個人の多様な生と社会政策—正義と福祉国家の再編—」

後藤 玲子氏（一橋大学名誉教授・帝京大学経済学部）

2) 北海道社会福祉学会総会

日 時：2023年7月23日（日）14：20～15：00

場 所：オンライン（Zoom）開催 出席者：13名

議 題：①報告事項

1) 2022年度 事業報告

2) 2022年度 収支決算報告

3) 2022年度 監査報告

②議決事項

1) 2023年度 事業計画

2) 2023年度 予算

3) 規約の改正について

(3) シンポジウム・研究大会の開催

1) シンポジウム

日 時：2024年3月9日（土）14：50～17：30

場 所：ハイフレックス（北星学園大学 C 館 5 階及び Zoom）

参加者：34 名（うち対面 16 名）

研究大会シンポジウム（ハイブリット）「孤立孤独支援に求められるソーシャルワーク実践」
＜シンポジスト＞

- ・生活困窮の観点 女性支援の実態から

吉中季子氏（神奈川県立保健福祉大学）

- ・ケアラー・ヤングケアラーの観点から

中村健治氏（北海道社会福祉協議会）

- ・不登校などの教育の観点から

野村俊幸氏（「不登校・発達障害を考える保護者会函館アカシヤ 道南ひきこもり家族交流会あさがお」事務局）

- ・ソーシャルワーク実践の観点から

高石豪氏（日本ソーシャルワーカー協会）

＜コーディネーター＞

松岡是伸氏（北星学園大学）

2) 研究大会

日 時：2024年3月9日（土）13：00～14：30

場 所：北星学園大学及び Zoom による開催 参加者：9 名

「療育・発達支援の「展開／転回」をめぐる言説とその問題性について」

志田圭将（北星学園大学大学院）

「生活保護における抵抗とスティグマの実態について—生活保護当事者の語りから—」

松岡是伸（北星学園大学）

「障がい者の生涯学習を見据えた活動づくりの一考察—A 町におけるボッチャ活動の事例から—」

近藤尚也（北海道医療大学）

主 催：北海道社会福祉学会・日本社会福祉学会北海道地域ブロック

(4) 院生・若手研究会

開催なし

(5) 日本社会福祉学会フォーラム

第 20 回「人口減少社会から考える社会福祉」—パラダイム・シフトへの道—

日 時：2024年3月2日（土）13：00～17：00

会 場：札幌学院大学新札幌キャンパス（Zoom とのハイフレックス開催）

主 催：一般社団法人日本社会福祉学会 一般社団法人日本社会福祉学会・北海道地域ブロック

対 象：一般社団法人日本社会福祉学会会員及び会員以外の方でテーマに関心のある方

参加費：無料

参加者：78 名

(6) 研究活動担当理事・委員会活動

1) 研究活動委員会

第1回 研究活動委員会

日 時：2023年6月16日（金）11：00～

場 所：オンライン開催（Zoom）

第2回 研究活動委員会

日 時：2023年11月1日（水）14：30～

場 所：オンライン開催（Zoom）

2) 研究会の開催

2023年度研究会の開催なし

3) 学会ニュース

学会ニュース① 2023年7月発行

(7) 機関紙編集委員会

1) 編集委員会

第1回編集委員会（稟議）：2023年4月19日（水）

- ・投稿論文の査読結果について
- ・投稿論文の査読者の選定について

第2回編集委員会（Zoom）：2023年6月15日（木）17：00～18：10

- ・投稿論文の査読結果について
- ・投稿規程、執筆要領の改訂について

第3回編集委員会（Zoom）2023年8月4日（木）13：30～14：00

- ・投稿論文の査読者の選定について

第4回編集委員会（稟議）2023年9月22日（金）

- ・投稿論文の査読結果について

第5回編集委員会（Zoom）2024年3月19日（火）11：00～11：40

- ・機関誌第44号の構成について
- ・投稿手続きの電子システム化について

2) 機関誌の編集・発刊

「北海道社会福祉研究」第44号（電子ジャーナル）発行 2023年3月

論文

「社会環境との関係性から見た発達障害の可能性のある学齢期の子どものレジリエンス」

朝岡健吾（北星学園大学大学院）

「精神科病院からの地域移行における多職種協働の実際 —長野県の取組みから—」

松本真由美（日本医療大学）

調査報告

「社会生態レジリエンスの概念枠組みから見た小学生が抱えるストレスの背景～Child and Youth Resilience Measure-Revised（子どもと青少年のレジリエンス尺度修正版）を手掛かりに～」

朝岡健吾（北星学園大学大学院）

(8) 研究助成事業の実施

道内の研究奨励、研究者育成を目的とする

- ・1名申請あり助成受理。助成に対する報告書提出あり

2. 現在、検討している事項

特になし。

3. その他（課題等）

- ・札幌圏以外の遠方の会員の学会参加の促進について（継続）。

東北地域ブロック 2023年度 事業報告書

1. 2023年度において推進した事業

(1) 幹事会の開催

第1回：2023年4月25日（オンライン）

第2回：2023年7月23日（対面）

第3回：2023年11月23日（対面/青森県立保健大学）

第4回：2024年3月25日（オンライン）

(2) 研究大会

福島県いわき市の医療創生大学を会場として2023年7月23日に開催し、14名の部会会員の参加。

自由研究発表（口頭）：8演題の報告がなされた

記念シンポジウムの開催「複合クライシスからのレジリエンス～地域共生社会に向けて～」

シンポジスト：高田 悟氏（いわき市災害伝承みらい館館長）

園部義博氏（NPO 法人地域福祉ネットワークいわき事務局長）

鈴木幸一氏（一般社団法人ときわ会統括事務局長）

高瀬芳子氏（福島県スクールソーシャルワーカー）

(3) 東北地域部会委員会研究誌について

2022年度に開催された東北部会第21回研究大会（青森大会）にて行われた研究報告を基に部会会員が投稿した研究論文をまとめた部会機関誌の発行

(4) ニュースレターの発行

第31号・32号を合併号として発行（3月31日）

*部会会員へはメールにて配信を行ったが、一部メールアドレス未登録の会員（17名）には紙媒体での送付

2. 現在、検討している事項

(1) 各種部会運営に関するデータのアーカイブ化

- ：東北部会の各種の研究資料、部会史料、事務局資料等の電子化
- (2) 部会運営に係る各種の規定、手引きなどの作成
- ：部会大会運営マニュアル、部会事務局マニュアルの策定

3. その他（課題等）

特になし。

関東地域ブロック 2023年度 事業報告書

1. 2023年度において推進した事業

(1) 運営委員会の開催（計4回：オンライン開催）

各委員会活動の実施・運営（広報委員会、機関誌『社会福祉学評論』編集委員会、研究大会委員会、奨励賞審査委員会、その他）

- ・第1回運営委員会（2023年6月12日）オンライン開催
- ・第2回研究大会委員会（2023年9月5日）オンライン開催
- ・第3回研究大会委員会（2023年11月15日）オンライン開催
- ・第4回審査委員会（2023年12月21日）オンライン開催

(2) 研究大会の開催

開催日：2024年3月17日（日）9：30～15：50

会 場：オンライン開催（Zoom）

参加費：無料

テーマ：女性支援と社会福祉学—婦人保護から総合的支援への転換
プログラム：

① 自由研究報告（9：30～12：00）6分科会、23演題

- (1) 研究報告部門（報告30分、質疑応答20分）
- (2) 萌芽の研究報告部門（報告15分、質疑応答10分）
- (3) 実践報告部門（報告15分、質疑応答10分）

② シンポジウム「女性支援と社会福祉学—婦人保護から総合的支援への転換」（14：00～15：50）

シンポジスト

堀千鶴子氏（城西国際大学 福祉総合学部 教授）

「研究者の立場から—婦人保護事業をめぐる歴史的経緯」

池田恭子氏（厚生労働省 女性支援室 女性支援専門官）

「『女性支援新法』の運用をめぐる課題と今後の取り組み」

畔上裕子氏（明石市 婦人相談員・明石市配偶者暴力相談支援センター 相談員）

「支援者の立場から—婦人相談員の支援現場の現状とそこからみえる『困難女性支援法』に期待すること」

ディスカッション

司会/コメンテーター：後藤広史（立教大学）、山田知子（放送大学）/湯澤直美（立教大学）

(3) 機関誌『社会福祉学評論』の刊行

- ・『社会福祉学評論』24号(2023)の発刊、4論文掲載

(4) 広報活動

ホームページにおける論文掲載や研究大会の開催等に関する各種情報の掲載

2. 現在、検討している事項

特になし。

3. その他(課題等)

2023年度研究大会のアンケートに寄せられたご意見等を踏まえて、次年度研究大会の企画・運営に活かしていく。

中部地域ブロック 2023年度 事業報告書

1. 2023年度において推進した事業

(1) 研究例会の開催

2023年4月22日に研究例会(院生・若手研究者のための勉強会、自由研究発表2本、シンポジウム)および総会を開催した。

(2) 機関誌『中部社会福祉学研究』第15号の刊行

2024年4月末に第15号を刊行した。2023年度春の研究例会のシンポジウムの他、投稿論文3本、研究ノート1本を掲載した。刊行後、日本社会福祉学会ウェブサイトの中部ブロックページに掲載した。

(3) 「院生・若手研究者のための勉強会」の開催

上記の通り、2023年4月22日に開催した。

(4) その他

部会の事業運営について協議するための幹事会を3回(6月、9月、3月)開催した。また、部会内に、①機関誌、②院生・若手研究者のための勉強会、③研究例会について検討する委員会をそれぞれ設置し、適宜Zoomによる会議を行った。

2. 現在、検討している事項

2024年度の研究例会を2024年5月19日に開催する予定である。午前中のプログラムとして、自由研究発表(2本)、大学院生・若手研究者のための勉強会があり、午後はシンポジウムを計画している。午後のプログラムには、会員以外からも参加者を募り、幅広く社会福祉学会の魅力を伝え、学術分野における社会貢献・社会への還元を行いたい。

3. その他(課題等)

中部地域ブロックでは、経年的に繰越金があったため、計画的支出として収入に対して支出が多い形でのブロック運営を行ってきた。昨年度と今年度で支出を見直し、運営を行っていく予定である。

関西地域ブロック 2023年度 事業報告書

1. 2023年度において推進した事業

(1) 理事会の開催

- ・第1回 日時：2023年7月4日（火）19：00～20：30 オンライン開催（Zoom）

審議事項：1. 2023年度年次大会について

2. 2023年度若手研究者・院生情報交換会について

3. 機関紙『関西社会福祉研究』について

4. 決算と監査報告について

5. その他

- ・秋大会開催担当に関する地域ブロックのローテーションに関する申し合わせ事項について

- ・今後のフォーラム事業の廃止か継続かについての検討について

- ・第2回 日時：2024年2月25日（月）18：00～19：30 オンライン開催（Zoom）

審議事項：1. 2023年度事業報告（案）について

2. 2023年度決算報告（案）、監査報告について

3. 2024年度事業計画（案）について

4. 2024年度予算（案）について

5. 関西社会福祉学会独自財源の取り扱いについて

6. 次期役員体制（案）について

7. その他

報告事項：1. 2023年度年次大会について

2. 2023年度総会について

3. 2023年度若手研究者・院生情報交換会 について

4. その他

※その他メーリングリストを活用して、必要に応じて情報を共有し、意見交換を行った。

(2) 若手研究者・院生情報交換会

- ・第54回若手研究者・院生情報交換会

テーマ：『社会福祉研究におけるデータ収集と分析のポイント』

日時：2023年12月9日（土）14：00～17：00

場所：花園大学 返照館 200 教室

プログラム

14：00～14：05 開会挨拶 関西地域ブロック担当理事 所めぐみ（関西大学）

14：05～14：35 教育講演「データの収集と分析のポイント」神部智司氏（花園大学）

14：35～15：05 報告① 量的研究の立場から：小松亜弥音氏（国立長寿医療研究センター）

15：05～15：35 報告② 質的研究の立場から：梅谷聡子氏（花園大学）

～～休憩：15分～～

15：50～16：20 報告③ 歴史研究の立場から：梅木真寿郎氏（花園大学）

16：20～16：50 質疑応答・コメント：福富昌城氏（花園大学）

16：50～17：00 総括

名刺交換会

・第55回若手研究者・院生情報交換会&

日本社会福祉学会研究支援委員会第4回CS-NETサロンとの共催

テーマ：『初期キャリア研究者にとっての共同研究の意義－可能性、苦悩、戦略－』

日時：2024年2月11日（日）14：30～17：30

場所：同志社大学新町キャンパス臨光館207号室

プログラム

開会挨拶：日本社会福祉学会関西地域ブロック担当理事 所めぐみ（関西大学）

14：30～14：40 開会挨拶および趣旨の説明

14：40～15：35 基調講演「学際的研究としての社会福祉学の挑戦」

全泓奎氏（大阪公立大学都市学科・防災研究センター）

15：50～16：35 話題提供

孔 栄鍾氏（佛教大学社会福祉学部）

高橋順一氏（新見公立大学健康科学部）

孫 詩彥氏（国際日本文化研究センター）

16：35～17：20 グループワーク

17：20～17：30 閉会挨拶および事務連絡

18：00～20：30 懇親会

・第56回若手研究者・院生情報交換会

テーマ：『海外での学びと研究の意義－異なる文化や環境下での研究体験から得られるもの－』

日時：2024年3月17日（土）14：00～16：30

場所：大阪公立大学杉本キャンパス 杉本図書館10階 研究者交流室

（プログラム）

登壇者：遠藤希和子氏（金城学院大学）

朴 蕙彬氏（新見公立大学）

田中弘美氏（大阪公立大学）

進行：鶴浦直子氏（大阪公立大学大学院生活科学研究科）

14：00～14：05 開会あいさつ

14：05～15：00 海外での学びと研究についての報告

15：10～15：50 海外での学びと研究についての座談会

15：50～16：30 質疑応答

16：30 閉会あいさつ

懇親会

（3）年次大会の開催

日本社会福祉学会関西地域ブロック・関西社会福祉学会 2023年度年次大会

テーマ：幸福としての福祉へ 増進型地域福祉を手掛かりに

開催日：2024年3月2日（土）10：00～16：30

場 所：桃山学院大学 和泉キャンパス（3号館・2号館）

参加費：無料

プログラム

（午前の部）

10：00～12：00 自由研究発表

12：00～12：45 〈 昼休憩 〉

12：45～13：15 日本社会福祉学会・日本社会福祉学会関西地域ブロック総会

（午後の部）

13：20～13：30 開会挨拶

桃山学院大学 副学長 辻井誠人氏

関西社会福祉学会 副会長 牧里每治氏

13：30～13：45 テーマ発題「なぜ幸福としての福祉なのか」

小野達也氏（桃山学院大学教授）

13：45～14：45 【基調講演】「地域共生社会 重層的支援体制整備事業の可能性」

野崎伸一氏（アマタホールディングス）

14：45～14：55 〈 休憩 10分 〉

14：55～16：30 【シンポジウム】「幸福としての福祉への実践と展望」

（シンポジスト） 竹口順子氏 （富田林市増進型地域福祉課）

所 正文氏 （社会福祉法人堺市社会福祉協議会）

長谷川大陽氏（桃山学院大学卒業生）

（コメンテーター） 野崎伸一氏（アマタホールディングス）

（コーディネーター） 小野達也氏（桃山学院大学教授）

16：30～ 閉会挨拶

日本社会福祉学会関西地域ブロック委員長 所めぐみ（関西大学）

（4）ニュースレターの発行（メール配信）

随時、会員へのメール配信、学会ホームページにて周知を行った。

（5）機関誌の発行

機関誌『関西社会福祉研究』第10号 2024年3月発行

2. 現在、検討している事項

今後の機関誌の発行体制について（機関紙を担当する理事、編集委員）

3. その他（課題等）

全国学会の大会運営の方針のもと、関西で全国大会を開催する際の開催校や開催運営方式についての検討

中国・四国地域ブロック 2023年度 事業報告書

1. 2023年度において推進した事業

(1) 部会委員会の開催

第1回	2023年6月2日(金)	19:30~20:30	オンライン開催 (Zoom)
第2回	2023年9月29日(金)	19:30~20:30	オンライン開催 (Zoom)
第3回	2023年12月26日(火)	19:00~20:00	オンライン開催 (Zoom)
第4回	2024年3月18日(月)	19:00~20:30	オンライン開催 (Zoom)

(2) 中国・四国地域ブロック総会の開催

2023年7月8日(土)第54回ブロック大会(島根大学)において総会を開催する予定であったが、大雨警報および避難警報等の発令により開催ができなかった。そのため、会報23-1号に2022年度決算報告及び事業報告並びに2023年度予算および事業計画書を掲載し公表とした。

(3) 中国・四国地域ブロック大会

第54回中国・四国ブロック大会(対面開催:島根大学)

テーマ:地域における包括的な支援体制づくり

日時:2023年7月8日(土)9:40~

※大雨警報および避難警報等の発令により、自由研究発表は開催し、午後からのシンポジウムを中止し、開催時刻を変更し基調講演を行ったうえで閉会とした。

(4) 中国・四国地域ブロック会報(電子媒体)の発行

- ・23-1号を2023年9月5日に発行
- ・23-2号を2024年1月30日に発行

(5) 中国・四国地域ブロック機関誌『中国・四国社会福祉研究』(電子媒体)の発行

- ・第11号を2024年3月に発刊した(投稿掲載論文3本)。

2. 現在、検討している事項

第55回中国・四国ブロック大会(開催校:山口県立大学)を2024年7月14日(日)に対面開催による実施に向けて準備中である。

3. その他(課題等)

全国大会の開催について、九州ブロックとともに、どのように取り組むのか検討していく必要がある。

九州地域ブロック 2023年度 事業報告書

1. 2023年度において推進した事業

(1) 運営委員会の開催

運営委員8名(全国学会理事2名を含む)、事務局員3名で構成される運営委員会を6回開催

第1回運営委員会・機関誌編集委員会

開催日時：2023年6月29日（木）

開催方法：メール稟議

主な議題：九州地域ブロック総会議案書（案）について

第2回運営委員会・機関誌編集委員会

開催日時：2023年7月9日（日）12：10～13：15※第64回九州地域ブロック研究大会終了後

開催方法：筑紫女学園大学

主な議題：「九州社会福祉学」第20号（記念号）の内容・構成について、2024年度以降の研究大会校について、2024年度運営委員選挙にともなう選挙管理委員の選任について

第3回運営委員会・機関誌編集委員会

開催日時：2023年7月31日（月）

開催方法：メール稟議

主な議題：第65回九州地域ブロック研究大会開催校の決定および大会内容について、Zoomライセンス契約の継続中止について、名誉会員の地域ブロックの参加費免除について

第4回運営委員会・機関誌編集委員会

開催日時：2023年11月5日（日）10：00～11：00

開催方法：オンライン開催（Zoom）

主な議題：「九州社会福祉学」第20号（記念号）の査読結果について、2024年度研究大会（開催内容、開催時期について）、その他

第5回運営委員会・機関誌編集委員会

開催日時：2024年1月6日（土）13：30～14：30

開催方法：オンライン開催（Zoom）

主な議題：『九州社会福祉学第20号』査読結果について、2024年度事業計画案について、2024年度予算案について、会員への連絡方法について、その他

第6回運営委員会・機関誌編集委員会

開催日時：2024年3月23日（土）10：00～11：00

開催方法：オンライン開催（Zoom）

主な議題：九州地域ブロック運営委員選挙結果について、総会について

(2) 第64回九州地域ブロック研究大会の開催

「筑紫圏域から地域包括ケアシステムを考える」を大会テーマに、2023年7月8日（土）オンライン、7月9日（対面）で、筑紫女学園大学にて開催した。

プログラムは以下の通り。

- ①基調講演・シンポジウム（Zoomウェビナーによるオンライン開催） 2023年7月9日（土）
- ②自由研究発表 筑紫女学園大学にて

(3) 定期総会の開催

2023年7月9日（日）第64回九州地域ブロック研究大会終了後に開催した。

第1号議案 2022年度事業報告（案）

第2号議案 2022年度収支決算（案）及び会計監査報告

第 3 号議案 2023 年度事業計画（案）

第 4 号議案 2023 年度予算（案）

（4）機関誌『九州社会福祉学』の発行

2024 年 3 月に『九州社会福祉学』第 20 号を発行した。詳細は以下のとおり。

- ・ 投稿論文数：論文 6 本、計 6 本
- ・ 掲載論文数：論文 4 本、計 4 本
- ・ 編集委員会の開催（Zoom によるオンライン会議 6 回、対面による会議 1 回）
- ・ 編集作業を次の手続きにより実施
 - ① 査読者（各論文 2 名）の査読結果に基づき、修正など投稿者に依頼
 - ② 修正された論文について編集委員会にて掲載の可否、掲載区分を決定し、投稿者に結果通知
 - ③ 論文の校正
 - ④ 投稿者へ論文掲載料振込依頼文書発送
 - ⑤ 2024 年 3 月に『九州社会福祉学』第 20 号を会員あてに発送

2. 現在、検討している事項

- ・ 郵便料値上げに対する対応として、会員への連絡方法についての検討
- ・ 『九州社会福祉学』の投稿要領についての検討について
- ・ 研究倫理についての検討
- ・ 研究論文投稿の言語指定について

3. その他（課題等）

- ・ 2025 年以降の九州ブロック大会開催について
- ・ 定期総会の開催時期について 2024 年度は 12 月にも開催する

一般社団法人日本社会福祉学会 第8期(通算第29期) 役員担当業務一覧

別表-①

氏名	主たる担当業務	担当委員会委員等	備考
空閑 浩人	会長	運営委員会	日本ソーシャルワーク教育学校連盟 (理事)
金子 光一	副会長 渉外担当(国際) 財務補佐(助言)	運営委員会 国際学術交流促進委員会 (委員長)	ソーシャルケアサービス研究協議会
保正 友子	副会長 渉外担当(国内) 総務補佐(助言)	運営委員会 地域ブロック担当者委員会 (委員長)	日本社会福祉系学会連合 (会長) 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 (理事)
木下 武徳	総務担当	運営委員会 (事務局長)	事務局連絡会担当 社会学系コンソーシアム (副理事長)
室田 信一	財務担当	運営委員会 全国大会運営委員会 地域ブロック担当者委員会	事務局連絡会担当
伊藤 嘉余子	研究担当	運営委員会 研究委員会 (委員長) 全国大会運営委員会 (委員長)	秋大会担当
山田 壮志郎	研究担当	研究委員会 全国大会運営委員会 (副委員長)	春大会担当 社会学系コンソーシアム
杉山 博昭	研究担当	研究委員会 学会賞審査委員会	社会政策関連学会協議会
村山 浩一郎	研究担当	研究委員会 全国大会運営委員会 研究倫理委員会 (委員長)	フォーラム担当
高良 麻子	渉外担当(国内)	研究支援委員会 (委員長)	ソーシャルケアサービス研究協議会 人文社会科学系学協会男女共同参画推進 連絡会 (GEAHSS)
坪 洋一	機関誌担当	運営委員会 機関誌編集委員会(委員長)	
岩永 理恵	広報担当	広報委員会 (委員長)	
久保 美紀	機関誌担当	機関誌編集委員会(副委員長) アーカイブ化推進委員会	
大友 芳恵	地域ブロック担当	北海道地域ブロック担当 機関誌編集委員会 (副委員長)	
元村 智明	地域ブロック担当	東北地域ブロック担当 アーカイブ化推進委員会 (委員長)	
後藤 広史	地域ブロック担当	関東地域ブロック担当	日本社会福祉系学会連合 (事務局長)
谷口 由希子	地域ブロック担当	中部地域ブロック担当 アーカイブ化推進委員会	
所 めぐみ	地域ブロック担当	関西地域ブロック担当 国際学術交流促進委員会	
山本 浩史	地域ブロック担当	中国・四国地域ブロック担当 広報委員会	
片岡 靖子	地域ブロック担当	九州地域ブロック担当 広報委員会	
大島 巖	監事		
岡部 卓	監事		

一般社団法人日本社会福祉学会 各種委員会構成

別表-②

委員会名	第8期委員会委員 (◎：委員長／○：副委員長)			
機関誌編集委員会	◎坏 洋一 石井 洗二 荻野 剛史 中村 和彦 南野 奈津子	○久保 美紀 伊藤 新一郎 潮谷 恵美 野田 博也 三宅 雄大	○大友 芳恵 植戸 貴子 澁谷 昌史 馬場 幸子 山口 麻衣	岡本 晴美 中尾 友紀 本郷 秀和
学会賞審査委員会	◎黒木 保博 井上 英夫 平野 隆之	○山縣 文治 笹岡 眞弓 細井 勇	杉山 博昭 森田 明美	野口 定久
広報委員会	◎岩永 理恵 有村 大士 片岡 靖子	石田 慎二 山本 浩史	任 セア	大澤 朋子
研究委員会	◎伊藤 嘉余子 杉山 博昭	村山 浩一郎	山田 壮志郎	
国際学術交流促進委員会	◎金子 光一 浅野 貴博 黒田 文 楊 慧敏	李 栖瑛 索 宏	VIRAG Viktor 所 めぐみ	姜 恩和 藪長 千乃
研究倫理委員会	◎村山 浩一郎 河谷 はるみ	柴田 謙治	永田 千鶴	宮原 和沙
全国大会運営委員会	◎伊藤 嘉余子 山田 壮志郎 小高 真美 湯原 悦子	村山 浩一郎 櫻井 真一 岡本 周佳	室田 信一 保正 友子 澁谷 昌史	渡辺 裕一 斉藤 雅茂 福田 公教
アーカイブ化推進委員会	◎元村 智明 今井 小の実 橋本 理子	久保 美紀 蜂谷 俊隆	谷口 由希子 廣野 俊輔	野口 友紀子
研究支援委員会	◎高良 麻子 大谷 京子 田中 将太 保田 真希	姜 民護 永野 咲	子安 由美子 増田 洋介	島崎 剛 宮崎 理
地域ブロック担当者委員会	◎保正 友子 大友 芳恵 所 めぐみ	元村 智明 山本 浩史	後藤 広史 片岡 靖子	谷口 由希子 室田 信一